

## 事業実績書

1 事業名 障がい児童への サイバニクス技術応用による機能獲得研究

2 実施期間 令和 7年4月1日～令和 8年 3月 31日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

CYBERDYNE 社開発の HAL は、医療用としては成人の一部疾患に限られているが、使用するニューロリハビリテーションの技術は、脳性麻痺児童などの機能獲得訓練にも効果を発揮することが分かっており、備中地域で募集した小児への集中トレーニングによる効果を測定、今後のリハビリプログラムの開発と新ロボット開発データ取得を行う。単年度の達成目標は、事業参加者（障害のある児童）の機能改善によるQOL(生活の質)の向上と、介助者の負担軽減。また、行政担当者様の理解の伸張を図ることである。

07年度は昨年引き続き、岡山ロボケアセンターで13名の小児に対して、5回のプログラムを実施して効果を測定する。

② 事業の流れ等

（告知）県内支援学校 7校 肢体不自由クラスのある学校

チラシ、案内文の配布

（連携）岡山大学病院 社会福祉法人旭川荘療育・医療センター

SDR手術後の患者へのプログラム案内

（プログラム）

（1）カウンセリングを行い利用可否の判断、フィッティング、及びプログラムプランの提案。

（2）岡山ロボケアセンター内での集中トレーニング開始。

1）使用機体：自立支援用2S腰HAL、単関節HAL、自立支援用2S下肢HAL トレッドミル、COGY

2）トレーニング回数：5回 開始から2か月以内の完了。

時間：90分

3）評価：トレーニング開始前と後での変化について理学療法の観点からの評価を実施。

③ 成果・効果

	脳性麻痺	神経難病	脊髄梗塞	SDR術後
粗大運動能力	➡	変化なし	➡	➡
関節可動域・筋緊張	➡	➡	➡	➡
筋力	➡	変化なし	変化なし	➡
歩行	未測定	未測定	未測定	➡

対象者：小児麻痺 6名 脊髄梗塞 2名 神経難病 2名 その他 3名 計 13名  
岡山大学病院での SDR 手術後の小児 5名（内数）

アンケート（集計中）の結果からも改善結果に対して大いに満足していることがうかがえる。

④ 今後の課題・展開等

小児用ロボットを運用しているつくばロボケアセンター、湘南ロボケアセンター、鈴鹿ロボケアセンター、大阪ロボケアセンター及び岡山ロボケアセンターで「KIDS HAL 支援ファンド」を立ち上げ、一定の障がい児童を継続的に受け入れるフレームを作成する。

⑤ 県民局との連携による効果

岡山県の事業ということで、事業の信用度を得ることができ、支援学校での告知、FM ラジオへの出演などの要請がスムーズに行えた。ありがとうございます。

4 参考事項・資料

写真（データでも提出すること）：パワーポイント資料に掲載します。

当日資料：パワーポイント資料

アンケート結果 他：集計結果が3月末になります。

対象者全 13 名に対し、回答数 9 名、未回答 4 名（回収率約 69.2%）  
アンケートの集計結果および考察。

【回答者属性】

お子様との関係：母（9 名全員）

お子様の年齢：6 歳(1 名)、7 歳(1 名)、8 歳(3 名)、9 歳(2 名)、11 歳(1 名)、13 歳(1 名)

【1. プログラム全体への満足度について】

Q1. 運動プログラム全体への満足度：大変満足 7 名、満足 2 名

Q2. 他の方にどの程度勧めたいか（10 段階評価）：10 点 6 名、8 点 1 名、7 点 2 名

【2. プログラムの効果・変化の実感について】

Q3. 身体面・運動面の変化：とても良い変化があった 3 名、少し良い変化があった 6 名

Q4. 具体的な変化（複数回答）：

歩き方がスムーズになった：4 名

身体の使い方が上手になった（バランスなど）：4 名

姿勢が良くなった：3 名

体力がついた・疲れにくくなった：2 名

転びにくくなった：1 名（「転びそうになった時に、ふんばって転びにくくなりました」）

その他：「マヒしている方がよく動くようになった」、「片足立ちが長くできるようになった」

※自由記述の追記：「上半身の体の軸が普段の歩き方を見て、しっかりしたと感じました。また歩く時の姿勢も良くなったと思います」

Q5. 精神面・意欲面の変化：とても良い変化があった 6 名、少し良い変化があった 1 名、変化はない 2 名

Q6. 結果説明のわかりやすさ: とてもわかりやすかった 6名、わかりやすかった 3名

【3. プログラムの内容・運営について】

Q7. 各項目の評価（5段階評価、5が「とてもそう思う」）:

①「全5回」という回数は適切だった: 5点(4名)、4点(5名)

② 1回の運動時間・内容は適切だった: 5点(7名)、4点(2名)

③ お子様は楽しんで参加できていた: 5点(7名)、4点(2名)

④ スタッフの対応は適切・丁寧だった: 5点(9名全員)

⑤ 当施設的环境は快適だった: 5点(9名全員)

⑥ 日程調整や予約はスムーズだった: 5点(9名全員)

【4. 今後のご意向・自由意見】

Q9. 今後の参加希望: ぜひ参加したい 8名、内容や時期によっては参加したい 1名

Q10. 主な自由意見・ご要望（抜粋）:

「このようなプログラムがあったらぜひまたやりたいです。いつも楽しくさせて下さって本当にありがとうございます。たくさんの良い変化があって感謝しています」

「学校の先生・リハの先生などからも左手の変化が気づいてもらったので参加させてもらえて本当によかったと思っています。目に見えて成長が感じられました」

「いつもわがままな娘に付き合って下さってありがとうございます」

「岡山市内でも出来ればいいと思います。自宅からはちょっと遠いので・・・」

※Q7欄への書き込み: 「(回数) もう少しやりたい・・・?」「(時間は) こちらにはもう少し短くても・・・?」

---

【集計結果からの考察】

1. スタッフ対応・環境面に対する圧倒的な信頼 未回答者が 4 名いる状況下ではあるが、回答を寄せた 9 名全員が「スタッフの対応」「施設の快適さ」「予約のスムーズさ」に対して満点の「5」をつけている。自由記述でもスタッフに対する温かい感謝の言葉が多く寄せられており、保護者が安心して子供を任せられる強固なサポート体制が確立されていることが伺える。
2. 明確な機能改善と日常生活へのポジティブな影響 回答者全員が運動面で「良い変化」を実感しており、特に「転びそうになった時に踏ん張れるようになった」「歩く時の姿勢が良くなった」など、日常生活の安全性や動作の質が向上したという具体的な報告があり。さらに、「学校やリハビリの先生からも変化に気づいてもらえた」という第三者からの客観的評価も得られており、プログラムの高い実効性が証明されている。
3. 年齢や体力に合わせたプログラムのカスタマイズの余地 全体的な評価は極めて高い一方で、「全 5 回という回数」については半数以上の 5 名が「4」にとどまっている。また、6 歳のお子様の保護者から「1 回の時間はもう少し短くてもよいので、回数をもう少しやりたい」という意向が余白に綴られていた。低年齢層や体力に不安のあるお子様向けに、集中力が続くよう時間を短縮し、その分頻度を増やすようなカスタマイズプランの導入が今後の顧客満足度向上の鍵になりそうである。
4. 継続利用に向けた「アクセス（立地）」の課題 8 名が「ぜひ参加したい」と回答するほどリピート意欲が高いプログラムだが、「岡山市内でも出来ればいい」「自宅からはちょっと遠い」という切実な声も挙がっています。質の高いサービスへの需要は十分にあるため、交通アクセスの問題が今後の離脱要因（継続見送り）に繋がらないよう、別拠点での展開や出張プログラムの検討などが今後のビジネス上の課題と言える。